

東京 陵 水

賀 正

平成14年 元旦
陵水会東京支部役員一同

これからの滋賀大学

滋賀大学学長 経済学博士 宮本 憲一

この七月十七日に、はからずも伝統ある滋賀大学の第十代学長に就任し、誠に光栄である。滋賀大学は今、この半世紀の中で、最大の転換点を迎え、その重責をひしひしと感じているところである。

陵水会の皆さんに実情をお話しする機会がないので、この紙面をかりて、今、滋賀大学が取り組んでいる改革の状況を述べたい。

近年、民営化・規制緩和・「小さな政府」を目標とする行政改革が進んでいるが、国立大学も二年後の独立行政法人化を目指している。政府の調査検討会議の中間報告によれば、その制度は次の五つの柱からなっている。

(1)「大学ごとに法人化」し、自律的な運営を確保

(2)「民間的発想」のマネジメント手法を導入

(3)「学外者の参画」による運営システムを制度化

(4)「能力主義」に立つた人事を実現

(5)「第三者評価」の導入による事後チェック方式に移行

一見すると、大学の



費交付金が付与されるが、これは第三者評価の結果などを反映させることになっている。滋賀大学のように文系の教師が主体となつているところで

学が研究よりも教育やサークル活動に重きをおき、国立大学が研究を中心にして、少数教育をするという特徴の違いがあつてよい。また、有名私立大学は大都市圏にしか存在できないのに対して、国立大学がどの地方にもあつて、地域の文化を創造する役割をもつ特色は、分権の時代に益々重要になっていふと思ふ。一律に私立大学化する必要はない。私立大学にすれば効率的で

を決めると言つてよい。滋賀大学は予てから自然科学系の学部をつくり、総合大学化したという計画を持っていた。残念ながら、財政危機の中で第三学部は難しい。たまたま、この6月に文部科学省が遠山プランを出した。二年前から滋賀大学は滋賀医大との統合を考え てきたが、この遠山プランで単科大学の存続が難しくなったこともあり、この統合が現実化した。現在、滋賀大学と滋賀医大は統合推進協議会をつくつて細部の協議を行っているが、できるだけ早い機会に統合したいと考えている。

私は、今後の学術は総合的で俯瞰的なものでないとならぬと考えている。環境・健康・福祉という今後最大の社会問題も自然科学と社会・人文科学の統合の中で、理論化され、政策が決定される。その意味では、今回の統合でこれらの現実的課題に総合的に取り組む道が示されることになり、滋賀大学の年来の悲願が実現できることとなった。

これに関連して、経済学部の改革も進めねばならないだろう。現在、経済学部は6学科、1学年550人、教員120人

目次

1 面	宮本憲一「これからの滋賀大学」	6 ～ 9 面	記念講演「心の産業としてのデザインランド経営」概要
2 面	小池東京支部長「年頭所感」	10 ～ 12 面	対談「こんにちは」
3 面	十三年度東京支部総会	12 ～ 13 面	随想、その他
4 面	総会関係記事	14 ～ 15 面	ゴルフ談義・近況
5 面	「ロシア経済の現状について」	15 ～ 16 面	東京を歩く・編集室所感

を擁する国立大学最大の規模と
なっている。しかし、研究・教
育の質から言うと、あまりにも
大きくなって、密度の高い成果
を挙げているとは言えぬ。グロ
ーバル・ファイナンス専攻が大
学院に出来たことを契機にファ
イナンス・会計・情報の三学科
を中心とする実学の学部を創造
し、残った学科で経済学部を再
構成したらどうかと考え、経済
学部の検討を待っているところ
である。

一方、教育学部も改革の嵐の
中にあり、教員養成過程が地域
統合される計画が出ている。医
大との統合にあたって、教育学
部の存続を考えてきたが、もし
万一にも教員養成過程の統合が
進めば、教育学部と経済学部と
の再編成は必至となるであろう。
このように滋賀大学は開学以
来最大の変化をしようとしてい
る。私としては、日本の高等教
育の発展のために、滋賀大学が
寄与できるように、努力するつ
もりである。

陵水会会員各位も、大学が道
を誤らないように、支持をして
頂くことを願って筆を置く。

陵水会東京支部会員の皆様、
明けましておめでとう御座いま
す。

昨年二十一世紀の幕開けは、
新しい時代に相応しい事件が続
きました。中でも世界を震撼
させるテロを続行しようとする
グループ組織とされるタリバン
掃蕩の努力が続けられて居りま
す。問題はテロ一連の動きが今
後も続くのではないかという恐
れでしょう。

(思うに、一般市民を巻き添
えにするテロは、社会体制が衰
退の中でそれを加速するような
事件が起こったときに起こると
言うことのようにです。例えば、
あの忌まわしいオーム真理教団
による地下鉄サリン事件テロに
しても、バブル経済が崩壊を始
めて五年、阪神淡路大地震の二
ヶ月の内に起こりました。今回
9・11の同時テロにしても、日
本を初めとして世界の動きが鈍
くなった時期に、IT革命とま
ではやされたアメリカ経済が急
降下した段階で、それを駄目押
しするが如くにして起こりまし
た。

現体制に強い不平を抱き、そ
れを破壊しようとする人々は跡
を絶たないでしょうが、体制が
しっかりしておれば、発生の可
能性は少なくなるが、社会の上
昇期と下降期は避けて通れない
自然現象的な姿であるとして
も、人間の力の及ぶ範囲を護る
ことによってテロを未然に防げ
る筈でありましょう。ここで何
事も諦めないNever Give upの
精神が生きてくるわけでして、
ここに、人間は精神的所産と言
われる理由があるように思います。
一方、昨今の新聞記事を見て
いますと、いたるところで経済
優先のための人員削減が行われ
ており、このままではテロ社会

年頭所感

国立大学の改革に当り主体的努力を

陵水会東京支部長 小池英夫(大1回)

に突入と言う事になるでしょ
う。人間社会は行き着くところ
まで行かねばならないとした
ら、人間って一体なんだろうと
思わざるを得ません。

そのこの処が紙一重の境目であ
り踏ん張り処ではないでしょう
か。

戦前―戦中―戦後を生きてき
た私なりの人生観は、人生にお



いて正念場は何度も姿を変えて
訪れるが、そのたびにベルトを
締めて真面目に立ち向かう事が
求められると言うこと。無作為
の作爲は罪以外の何物でもな
い、懸命になってやっている人
を傷つけ、あるいは死に至らせ
て仕舞います。狂牛病に対する
官僚の無作為の罪がこれに当た
ると新聞にも書いてありました。
ところで、去る十月十一日滋
賀大学統合問題などについて、
臨時役員会を開催すること
で彦根陵水会館に行つてまいり

ました。今わが母校滋賀大学は
存続の危機に直面して居り、宮
本学長からの記事にそれが強く
訴えられて居る通りですが、先
生はこれまで、国立―公立―私
立大学の経営形態を経験してこ
られ、今日の滋賀大学にとって
最も貴重な方を得たと思うので
すが、財政的に行き詰まりを見
せているわが国にあって、国立
大学こそ国家生命の血を垂れ流
す一つとされておられ、主体性
を持った計画を実現しないと、し
かも国家方針にあったものでな
い限り国家予算は割り当てられ

ないと言う鮮明な方針が打ち出
されております。先ずは国家方
針に添った滋賀大学自体の主体
的計画を打ち出すことから始め
る事になるのではないでしょう
か。先に国立滋賀医科大学との
統合がテーマ付けられて、両者
漸く合意に達したところで遠山
プランが出てきて、更に高いハ
ードルが設けられたと言う感が
有りますが、それほど国家財政
は逼迫してきており、国家方針
を先取りするくらいの独自性
のある計画を打ち出してこそ存続
が期待されると言うことでしょ
う。考えられるのは滋賀医科大
学との統合↓県境を越えた大学
との統合↓本部はその後彦根で
なくなるかもしれない。

明治初頭、廃藩置県政策の標
的存在であった彦根のお城が残
ったのは、市民の動きをその目
で見た大隈重信公の一言に因つ
たと言われています。

滋賀大学の存続をわれわれ卒
業生が為すべきことをしないで
廃止されたこととあっては、先の無
作為の作爲の罪を自ら作る事
になるわけで、今年こそわれわれ
卒業生の建設的討議の纏めを作
って、大きな声とするようお互
い力を合わせる年にしたいと思います。
宜しくお願い致します。

東京支部十三年度総会

「役に立つ陵水会」を課題として開催

陵水会東京支部総会が、七月二十六日(木)午後五時三十分からJR東京駅丸の内南口の東京ステーションホテル二階「牡丹の間」において開催された。

今年度事業計画の検討のなかで、総会の活性化と斬新的内容を目指して、特定の卒業回次が「東京順次当番」となり、総会内容の立案、講演会講師の選定を行うものとした。平成十四年度夏の総会では大学十四期が担当する。この期の会員は年齢的にも、企業、団体の指導的立場にあり、講師の選定、開催内容について、多くの情報を持ち合わせていると考えられるし、来年二月の母校卒業生との懇話会も担当する事にも成っていることが、最初の当番回次となった事情。この後収支予算の検討、承認と続き議事を終了した。

特別講演は、午後六時から約九十分にわたり、オリエンタルランド株式会社(東京ディズニーランドの経営主体)元専務取締役で幾つかの大学で教鞭を取られていた山下 堯(たかし)氏を講師として進められた。開演に先立ち講演開催の労をとられた松下電器宣伝事業部の田中



和夫氏(大18)から講師の紹介がされた。また、ま当年九月に「東京ディズニーシー」がオープンされることになり、時宜に合ったものになった。



午後七時三十分から懇親会に移った。乾杯の杯を八十一才になられて尚、パソコンが趣味の清水源一郎氏(本15)が挙げた。事務局で出席会員個々の卒業回次、現職または退職前の勤務先、学生時代のゼミ、所属クラブ、出身県を「自己紹介に代えて」と題してまとめたレジメを配付、胸の名札と併せて出席者相互のコミュニケーションが円滑に図られるよう工夫された。今年度入会の新会員からもそれぞれ自己紹介があり、恒例の高商校歌、徳聖寮々歌の大合唱と続き、支部の更なる発展を祈念した拍手で、午後九時に再会を約して懇親会を終了した。

総会議案概要

○平成十二年度事業報告

十二年七月二十五日 総会 講演会(「時代を読む」田原総一郎氏)

十二年五月二十三日 役員会

十二年十一月六日 役員会

会報「東京陵水」七十九、八十号発行

ホームページの開設

検討会議(十三年一月二十二日)開設(十三年一月二十二日)

以後発信内容の充実を進め、利用回数も千回を優に越えた。

同好会 ゴルフ会四回 囲碁会二回

○平成十二年度決算報告

収入の部 三、七〇五、五七〇円

支出の部 三、六八四、六一七円

資産 三、二六五、三三八円

○平成十三年度事業計画

本部事業に対する協力と推進

会報「東京陵水」の二回発行と紙面の改良(B五版をA四版に拡大)

総会、役員会の定例会合の他、ホームページ運営委員会等の開催

ホームページ運営計画 *同期会、同好会の相互連絡、消息、文芸記事の投稿促進 *企業PR(リクルート、商品、サービ

ス)、各種コンサルタント業務PR(有料) *掲示板、各種意見や情報交換(現役学生を含む)

○平成十三年度予算(繰越金を除く)

収入の部 三、四〇八、〇〇〇円

(対前年実績比九二%)

支出の部 三、三〇〇、〇〇〇円

(対前年実績比九〇%)

会費の積極的納入を会員各位に切望したい

○平成十三年度支部役員

支部長 小池 英夫(大1回)

幹事長 箸方 海三(大4回)

副幹事長 西野 宏(大7回)

副幹事長 中川 寿一(大10回)

副幹事長 守谷 貞夫(大12回)

副幹事長 小口 晃(大14回)

編集長 鈴木 重成(大7回)

監事 高木 早苗(大1回)

監事 星出 潔(大13回)

顧問 高安 良雄(本5回)

顧問 佐野 志郎(本18回)

顧問 川本 茂(大1回)

○平成十三年度本部評議員

木村信一(本19) 葛上宗一郎(本

20) 河添治男(本21) 田村平太

郎(本22) 丹羽欽治(本22) 岡田

浩(本24) 川本茂(大1) 小池英

夫(大1) 箸方海三(大4) 白井

靖(大6) 鈴木重成(大7) 吉原

悟一(大9) 中川寿一(大10) 宮

野幸雄(大12) 柴原良昭(大17)

来年度の陵水会東京支部総会の企画運営を、我々十四回及び十五回卒業生が担当する事になりました。この主旨、目的及び方法は、初めての試みであり成功することが出来るか心配でもあります。しかしながら今後の陵水会発展（会員数は増えているが総会参加者が一向に増えないことと、年会費の振込がむしろ下がっている）の為にぜひ成功しなければなりません。会員の皆様の絶大なる応援をお願いいたします。

さて計画運営を当番年次制にする目的は、担当年次会員が結束協力して、総会運営に新風を吹き込み、総会参加者の増員を図り、総会運営を契機として陵水東京支部会の活性化を図る“を目標としております。平成十五年は十五回の卒業生が主体となって企画運営する事になります。そしてそれによりまして、毎年参加者の若返り化を図る事ができることになりました。

十四年度総会の概略を下記の如く計画致しました。同窓生及び前後の先輩、後輩及びクラブ

平成十四年度陵水会東京支部総会の案内

小口 晃(大14回)

活動の皆様にも合わせて声を掛けて戴き、一人でも多くの会員の皆様の参加、ご来場を心からお願い致します。

尚、詳細については、本紙次号によりご連絡します。

(1) 開催日時・平成十四年六月六日(木)十八時から二十一時

(2) 場所・東横厚生年金会館(中央区東日本橋三

六―二十 当会館には滋賀県人会東京支部入居)

電話番号 03―366

1―5371

(3) 会費・六千円

(バーティー代を含む)

(4) 特別講演・演題「プロ中のプロであれ」(仮題)。講演者は石川顯(あきら)氏。同氏は一九四一年神奈川県生まれ。六四年早大卒。同年TBS社に入社。爾来三十七年間スポーツアナウンサーとして活躍。その間、二〇〇〇年のシドニ

ーオリンピック中継を始め、プロ野球、マスターズゴルフ、マラソン等の幅広いキャリアを持っています。「何事もプロであれ」をモットーに日常の健康管理と、徹底した事前取材を貫いております。

七月二十六日、東京ステーションホテルでの総会に参加した。会場に入ってまず気が付いた事は、「準備された椅子の数が、いつもより少ない」であった。「出席予定者が少ないから」とのことであった。結局、総勢七十数名で開会となった。例年総会参加者が何名くらいなのかは知らないが、恐らく今年は極端に少なかったのではないだろうか。わが同期生をみてもいつもより少なく、たったの三人であった。確かに、年齢的に縦に長い同窓会の人集めは難しいもので、小学生、高校同窓会の経験からその点は重々理解できるのである。学年が一年違うだけで、その距離がどんなに遠いものであるかは、誰しも経験するところである。ましてや八十才の長老から二十代の若者までとなる

と、これを一つにしようとする所に無理がある様に思う。しかし、そうは言っていられないのだ。

一方、同期生だけの集まりとなると、それぞれの学年も結構活発に、人数もそこそこ集まって楽しくやっているようである。決して集めるのに方策が無い訳ではないようだ。この同期の集まりを持ち寄って総会につ

なればよいのである。がしかし「言うは易く行ふは難し」だろう。

さて政界は改革の声がかまびすしい。行政改革の一つに特殊法人の整理、民営化が叫ばれ、すでにその具体案が、机上に登ってきていることはご存じのとおりである。大学もまた独立法人化が叫ばれ、いずれその統廃合や縮小化等が具体化、現実化するのにもそんなに遠くはないように思われる。その時わが滋賀大学経済学部がどのように組み込まれるのか。それは現大学の

十三年度総会に

参加して思うこと

細井 恭一(大5回)

力が如何に評価されるのか、が大きく左右することは無論のこととして、さらにその卒業生の組織である同窓会＝陵水会の力も、又その改革に大きく寄与することは論をまたない事と思う。そういう時にあって、我々

は何とか陵水会を守り立て、少しでもその改革を優位に進めよう、バックアップしなければならぬと思う。会の情報誌を活発にするもよし、ゴルフ会もよし、囲碁会もまたよし、である。もっと他にもいろいろあ

てもよいと思う。そして先ずはその中心となる総会を盛大にし、会費徴収を増やし、母校への情愛のボルトを上げねばならないのである。

恥ずかしい話だが、私もかつてこんな事を考えていたことがある。それはちょうど今回のように同期のものが殆ど出席していない寂しい思いをした時であった。「次回からは特別に呼びがかからなければ出ないでおう」「誰か出てくれるだろう」「出てくれる人に任せておけばよい」と。

これでは萎む一方だ。出なければますます自分も世間が狭くなり、面白くなってくる。悪循環だ。そこで深く思いなおした。人との交流ほど楽しいものはない。私も古稀の声を耳にするようになった。これから先、何年の命かは解らないが、青春の情熱を傾けた友と、何時までも付き合っていきたいと思っている。

私は心に決めた。「他人はどうであれ、私は必ず参加しよう」と。すべてそこから事は始まるのだ。そして出来るだけ多くの同期の連中に声を掛け合って、皆で盛大な総会にしようではありませんか。

自分の人生

―総会に初参加して

北村尚志（大49回）

大学を卒業し半年が経ち、以前とはまったく異なる生活と気持ちでいます。私は銀行のシステム部で仕事をしております。最初を受けた研修は、目的意識のある勉強です、昔のような時間がたてば出来たり、何とかかなるだろうと言う気持ちでは決して身につきません。実際の業務になって初めてあの時、やっていけばと後悔することになると思います。私の進んだ道SEという職業は自分が望んでいた道なので、やる気だけは誰にも負けませんでした。IT業界はしんどいとはよく耳にしますが、それだけ仕事があり、しんどいのはわかりませんが、そのしんどさをどれだけ楽しめるかだと思います。やらされる意識でするのはなく、進んでやる気持ちが必要であり、実際に力がついてくると楽しくなってきました。常に向上心を持つ気持ち、それを行動に代えて日々成長しております。

大学時代はサッカーに明け暮れていました。あの時代はサッカーなんていつまでもできると思っていました。現実とは違っていました。同じように二十代では何でもできると思っていました。三十才になってできないと気付くかもしれません。サッカー部で副キャプテンをして、人をまとめたり、実際、人の上に立つて思ったのが組織化の難しさでした。昔とは比較にならない大きな組織の中で、どうすればこの組織をまとめていけるのか、人の上に立てるのかと考えるときに一番いいのは「できる人」と多くの時間を共有することだと思えます。その人のいいところを吸収することで自分の成長にもなり、何より楽しいです。

前回の陵水会の集まりでは二十代が少なかったのが残念でした。これから人脈作りの為や、とりあえず楽しみたい！理由は何でもいいます。せっかくの機会ですから多くの人と話をしていきたいと思っています。

ロシア経済の現状について

塩谷昌史（大41回）

一九九一年のソ連崩壊後、ロシアはエリツィン大統領により統治されるようになった。彼が徹底したのは経済の自由化、民営化、規制緩和であった。この政策は共産党陣営を押さえ込むことには貢献したが、ハイパーインフレが発生し、国内経済は疲弊し、ロシア国民は相当な痛みを伴った。ロシア経済は一九九六―九七年には短期国債の発行により、一時的に持ち直したが一九九七年のアジア経済危機により、国際市場での原油価格が下落したために、ロシアは短期国債が支払えず、一九九八年八月に国家破産の状況に陥った。

このように再中央集権化は、旧ソ連のような体制にロシアが再び戻る動きだと見る識者もいるが、私は同意できない。プーチン大統領は、これまで東アジア諸国が取ってきた「開発独裁」のモデルを採用して経済発展を実現しようとしているように私は思える。つまり、経済発展には障害となるような動きに対しては、仮に「反民主化」と言われようとも粉碎し、逆に経済制度を経済発展に適するものに柔軟に変えていくという、開発モデルである。

また、エリツィン大統領の経済自由化の中で、うまく立ち回った新興財閥が生まれ、大統領と癒着しながら、彼らは利権を温存しようとした。ところが、プーチン大統領は財閥との蜜月関係を断ち切り、逆に警察権力を最大限に用い財閥を押さえ込んだ。このやり方に反発する財閥のトップは西側メディアを利用して、民主化に反するものとして大統領を非難したが、彼らは逆に留置所に入れられるか、国外逃亡を余儀なくされた。現在は大統領に逆らう財閥はほとんどなくなった。

ロシアの首都モスクワは、この十年間に相当な変貌を遂げた。今や金さえ出せば、世界標準の高度なサービスを受けることが出来る。街中にはネオンサインが輝き、日本料理を含め、世界のあらゆる高級料理を賞味することが出来る。また、フランスやイタリアの高級ブランドショップが目抜き通りに並んで

一九九九年よりプーチン大統領がロシアを統治するようになり、ロシアは混乱から安定を目指すようになった。プーチン大統領が行った改革を一言で述べれば、それは「ロシアの再中央集権化」と言うことになる。エリツィン大統領の時期に民主化の影響を受け、地方自治体に相当な権限委譲が行われたが、プーチン大統領は流れを逆転させ、地方自治体から自治権を出来るだけ取り上げ、大統領に権力が集中するようなシステムに転換させた。これは「連邦管区制」と呼ばれている。

ロシアは昨年経済成長率八・三％を記録し、税収も伸び財政赤字を解消した。これは主に国内資源の石油や天然ガス輸出に支えられている。失業率も着実に低下しており、国内生産もプラスに転じている。外貨準備高では、イスラエル、マレーシア、タイを抜き去った。国内のサービス業も急速なスピードで伸びている。経済の好転がこのまま継続されるかどうかは、まだ不透明なところもあるが、もし後二年で経済制度を経済発展にふさわしいものに転換できれば、十年以内にロシアが再び経済大国として現れるのも夢物語ではない。

陵水会東京支部総会記念講演

(平成十三年七月二十七日 東京駅ステーションホテル)

「この産業」ユングのディズニールランド経営

オリエンタルランド(株) (元専務取締役)

山下 堯氏

(昭和三十一年三月 東京都立大・法学部卒業)

(本講演は平成十三年九月四日のディズニール開園前のもので、編集部)

ディズニールランドにつきましては、いろいろお話することがございますが、ディズニールランドの特徴としては、サービスが組織的に行われているという点でして、サービスのあり方を中心にして、お話をさせていただきます。

最初に、ディズニールランドの近況をご紹介させていただきます。

ディズニールランドができたのが、昭和五十八年四月でして、ちょうど十八年と三ヶ月経過したところでございます。この間のお客様の数ですが、昨今までに累計で二億六千万人を超えたところです。日本の人口が一億二千六百万人ですから、まあだいたい、日本の方が二度ずつくらいしゃつてることになるわけですが、実は、さにあらずでして、半分が半分いってないかと思っております。それは

現在、第二の時期として東京ディズニールという新しいテーマパークをオープンすることになりました。遊園地を造るために、千葉県から払い下げを六十万坪受けていました。まだ三分の一が未利用です。そこに、ランドではなくてシー、七つの海をテーマにしたテーマパーク。その海もマーメイドが住んでいる海とか、楽しい海をテーマにしています。

ミッキーと握手



さて、本論に入ります。と、当初想定しましたより人気を得ております第一の要因は、ディズニールランドのコンセプトがお客様に非常に受けたことにあるま

す。お客様の構成は、女性が多分二なんです。特に女性の気持を捉えたことが大きいんだと思われま

誕百年でございます。ディズニールは映画界の人で、アニメーション映画とかをつくり、アメリカの第二次映画黄金時代の大立者といわれております。そのディズニールがどうして遊園地のようなもの考えたかといひますと、映画の延長線上のものを考えたわけです。映画というのは二次元の世界(映像の世界)のものでして、これを三次元の世界、いつてみればミッキーマウスと握手することができるといふ、実体のある世界にしたかつたということに尽きますね。ですから、ここでは全て映画のルールが適用されておまして、私も従業員のことをキャストという映画の言葉(配役ですね)で呼び、お客様をゲストと申します。お客様も観客席に座つてないで、どうぞキャストと直接の交流を持ち、いっしょに楽しましようというコンセプトなのです。

ハピネスを提供

次に、彼、ディズニールがお客様に何をプレゼントしたいかといひますと、この世で一番ハッピーな場所、「ハピネス」を贈りたいということ。それにはイマジネーションとコミュニケーションの二つが、非常に大きな要素になっていることを申し上げたいのです。彼はお客様のイマジネーションを精一杯上げたんだと言っています。だから普段の日常生活と違つた、いろんな想像力が働かせる場が必要だということですね。そこで彼が言っていることは、夢が、実際にそこに行く現実の世界になるということですね。アニメーション映画に出てくるようなシンデレラ姫がいたり、白雪姫がいたり、あそこに行く現実には会えるということなんです。日本にテーマパークというのはたくさんありますが、世界をテーマにしたものが一番多いんです。現実にあるものをテーマ

一方、量的にもすばらしい計算をしています。お客様が一度いらつしやると、夏場で滞在時間がいいたい平均八・七時間です。歩行距離は約十キロですね。それくらい歩くと、きょうはちよつと疲れたと、いい疲労感な

それからここにもう一つ、コミュニティを取り上げています。ドイツ・ニールランドにいらつしやつてですね、いろんな人、知らない人とでも話し合う、いっしょの人とでは話はずむ

画を見たり、いい芝居を見たりすると同じような氣持になる、みな主人公のような氣持になつて涙流したりと、違う人とも同じような氣持になる、それがデイズニールランドには非常に重要だと言っています。

ちよつとここまで抽象的な話をしましたので、私がデイズニールランドがオープンしまして去年までおりました間の、実体験のお話を、多少、いたしたいと思います。

私がオリエンタルランドに入りましたのは、これからデイズニーランドの建設が始まるよということで、三井不動産から出向してのことでした。工事は昭和五十五年に着工しました。まだだだ人の数は、百五〇六十人

最初に建設を担当してびっくりしましたのは、非常口に“誘導灯”というのがありますね、緑色の。あれを、デイズニールドには付けないというんですね。私はびっくり仰天、跳び上がったんです。これを付けないと建築許可は絶対おりないんですから、それは不可能だと説得しました。

そこで、よく聞いてみると、あれは現実の世界で使ってるものじゃないかということです。日常の世界で使われているものだと思います。じゃあ、デイズニーは何かというと、非日常の世界だということです。大きなテーマは「夢」ですから当然、非日常の世界なんですよ。だから、それを実際造るためには、あんなもの困ると言ってますね。園内から外の景色が見えちゃいけない、日常の風景

オーブンしまして、お客様がいらつしやると、いろいろのことがありました。まず迷子が大量に発生するんです。一日、多いときは三百人くらい。迷子が出てくると親御さんは呼出しのアナウンスをしてくれと言うん

ですね。これには困ったんですね。呼出しのアナウンスなんか始めたら、年がら年中アナウンスになって、夢の世界が保てないじゃないかということです。そこでいろいろご相談して、携帯の無線機を作って、主なキャストに持たせました。お子様をベビーセンターというところにお連れして、そこで親御さんとお引き合わせするということにしたんです。そうこうするうちに、

デイズニールランドは呼出しをしないということを、だんだん理解していただきました。

それから、あそこで売っている商品は、コンビニやスーパーで売っているものは一切置いてないんです。どっちかというところを表したようなものを売っています。自動販売機も置いておりません。あれはまさに、街の風景なんです。電話機も緑色の

んに作っていたきました。あの緑色の電話機を見て、用事を思い出したんでは困るんで、非日常の世界を演出しているということになります。また、お客様に弁当を持ち込んじゃ困る、お酒は飲ませないことを強制し

ておられます。これが最初の頃、たいへん不評でした。なぜ悪いのかわからないのですね。ファンタジーランドですね、海苔のついたおにぎりなんかを、ベンチでむしゃむしゃ食べられちゃうと、もうファンタジーランドでなくなっちゃうんですね。いまは、アンケートをとってみると、女性が多いせいでしょうか、それがないへん高く評価されています。

最近、ユニバーサルスタジオができております。ユニバーサルスタジオとディズニールンドの違いを説明しますと、両方とも映画の世界ですが、ディズニールンドは映画でいうと映画の完成品、出来上がり姿を見させているんです。片一方はスタジオです。映画を作る仕組み

みたいなものを通じて、凄いスリルとかサプライズとかを演出しようとしております。だから個々のアトラクションそのものは、デイズニールランドよりユニバーサルスタジオのほうがジョーズ (Jaws) が出てきたり、大地震があつたりして凄いスリルがあり、はるかにパンチが効いていて面白いんじゃないかと思うんです。私もアメリカで行きましたけれど、環境を守るということではデイズニールランドに特徴があり、片一方はやっぱり映画のプロセスみたいなものを作るのですから、どっちかというと、現実が見えても差し支えないということでしょう。スタジオの傍には超高層のビルが見えています。

デイズニールランドのほうは、on stageという言葉があつて、あそこはステージなんです。その裏をバックステージといつて、従業員がいてオフィスがあるところなんです。ルールを守って絶対見せません。デイズニールは出来上がりをお見せするんです。ユニバーサルスタジオの男性客は全体の四割、デイズニールランドは三分の一で、ユニバーサルスタジオのほうが男性客が多いと新聞に書いてありまし

たが、ユニバーサルスタジオは強烈なスリルとかがあつて、デイズニールランドより男性に受けているのかなという、気がいたします。

デイズニールランドはテーマパークです。テーマによっていろんな世界を見せる、ファンタジーとかアドベンチャー、アトラクションとか食堂のメニュー、そこで売っている販売商品までテーマによって整理されています。それは、デイズニールは映画の世界だからです。映画はテーマがないとできないですから、テーマによる自分たちの世界を楽しむで欲しいと、そのためにずいぶん細かい仕組みがあります。例えば、テーマ毎にわかれています。例えば、従業員の着ているコスチュームも場所が変わるたびに着替えていかなければなりません。

デイズニールランドには、何回いらつしても新しい発見と感動の世界があります。これはデイズニールが大事にしていることで、常に同じではないということですね。デイズニールランドには人形がたくさんいますよ。千二百体くらいの人形が動いているんですが、その衣装をいろいろ変えたり、新しい動きに変

えなければなりません。整備をやっている人間が四百人程いるんですが、その人たちの発想によっていろいろ動きを変えている、それがデイズニールに言わせると非常に大事なのです。イマジネーションとは無限に拡がっていくもので、お客様にイマジネーションの拡がりを見せるということが大事なんです。そういうことで常に新しいことを演出していくことになっています。そのためにデイズニールランドは永遠に未完成なのです。

笑顔でこんにちは

それでは、どうしたらお客様と、心のふれあいができるかというところについてお話しします。最初に考えたことは、「いらつ

しゃいませ」という言葉をやめたことです。「いらつしゃいませ」というと、お客様は黙って通り過ぎちゃうんですね。こっちから挨拶したときに反応がなきゃいけない、そこで「こんにちは」とか「こんばんは」にしたんです。案の定、お客様は私たちが背広なんか着ていても、「こんにちは」と応えて下さいます。デイズニールランドはスタートの「こんにちは」で気持が

和む状況ができたわけです。

それから、もっと大事にしなければならぬと私たちが考えていることは、スマイルということですね。デイズニールランドはやっぱりスマイルがないとダメなんです。必死になってスマイル、スマイルです。例えば、IDカードの写真もスマイルでないとダメだと言ってるんです。職場の環境でスマイルを維持することは、殊にサービス業の場合は重要なことなのだと思います。

それから、お客様は全てVIPということで、お客様に差をつけないということを非常に重要な課題にしております。サービス業は公平に扱うのが原則なのではないかということなんです。私ども、お客様がみえろと、ミツキーマウスやミニマウスが挨拶に行くんですが、これも時間管理されていて、ぬいぐるみ人形は同じところには一体しかいなくて、非常に短い時間にグルグル廻っているんですね。そのためお客様が、一緒に写真とりたいとか、触りたいとかしているときに、五分もして時間が来るとクルット後ろを向いて帰っていくことがあります。そうするとお客様からクレームの

手紙がきたりするんです。うちの子供の顔を見たら帰ってしまった、かわいくないからでしょなどと書いてあつて、びっくりするんです。要するに差をつけるということは非常にこわいんです。

それでは、ここで私たちが考えているサービスについてお話したいと思っています。ずいぶん大げさだと思われるかもしれませんが、私たちの事業を「心の産業」といっているんです。私たちは、ものを売ってるんじゃない

くて、サービス、といつても一般のサービスとちよつと違うサービス売っているんです。心の満足といった情緒的なものを売って、心の満足とか夢のような体験を提供することでお金を頂戴しているということです。ちよつと大げさに言えば、一般の企業のサービスと比べますと非常にシビアなんです。

教育なんかやつたりして、私も考えました。サービスってなんだらうと。サービスは、するほうと受けるほうがあるんですが、どっちかというと、するほうの考えたサービスが、いままでのだいたいのサービスということになっていたんです。

われわれは、“心の産業”と
いっていますから、心で受け止
めるようなサービスをやらなき
やならないと、従業員に教えて
いるわけです。ある時、お客様
からいただいた感謝の手紙のこ
とを社内報に載せましたら、か
なりのキャストから、私もお客
様からこういうことをしたら喜
ばれた、お客様から会社にお礼
の手紙を頂いたことを部長から
知らされたとか、集まってきた
んです。お客様に喜ばれるこ
とが基本だと思っていました
し、そういう事例がたくさん来
ましたから、我が意を得たりの
気がしました。デイズニラン
ドのサービスは形のサービスで
はなく、心に訴えるサービス
だよと言っています。そういう
ことがあるとお客様は言葉で返
してくるんですね、ありがと
うとか、お礼の手紙が来るとか。

私はTwo-way communication
ということを言っています。
す。いままでのサービスはone
way。チャーンとやればtwo
waysのサービスが出来るんじ
やないかとみているわけです。
これからの世の中は、サービス
化時代が進展していくと、形だ
けのサービスではダメで、本
当にサービスだというものでない

とダメだという時代になってい
くと思うんです。サービスに對
する評価がシビアになってく
るんですね。サービスの基本と
いうものは、双方向のコミュニ
ケーションが必要じゃないかと思
います。バブル時代の行動な
んかをみていますと、企業本位
というか企業エゴとかで、本
当に相手の立場を考えてやってた
か、企業行動したかというのと、
どうも企業本位、サービスをす
るほうの論理でやってた、さ
れるほうの論理は欠如していた
んではないかと思うんです。

デイズニランドにもマール
ッティングはありまして、お客
様の満足を如何に作り出すか
ということが、マーケティング
の基本です。そのためにアトラ
クションを企画し商品の開発、
スペシャルイベントの開発をす
るわけですが、大事なことは、
いやな体験をさせない、bad
experienceをさせないことが、
リピーター中心の企業には大事
なことなんです。一度いやな体
験をするとお客様は来なくなっ
てしまう。どうやっていやな体
験をさせないかという体制を作
っていくことです。リピーター
といえば恰好いいんですが、固
定客のことです。固定客がある

日、突然来なくなったという
上の人はわからないんですよ
ね。現場の人が何か失礼なこ
とをしているから、その原因がわ
からない、対応ができない。だ
からそれを、どうやって未然に
防ぐかということです。

お客様が主役

次は従業員の教育についてで
す。マニュアルを作った教育し
ているのですが、そのマニ
ュアル教育が評判になって、宣
伝していたところもあるん
ですが、私が今日言いたいのは、
マニユアルで教育しても非常
に境界が多いということですね。
いくらやっても果たしてこれ
でいい従業員が作れるかとい
うと、境界がありますね。仕事
の仕方とか、技術的なこととか、
知識的なことは全部マニユアル
を作った教えるんですね。同
じように対応できるからサー
ビスが平準化して、たいへん有
効なんです。全てではないん
です。しかし、マニユアルを超
えるところにサービスがあるん
です。心をどうやって教えるか
は、マニユアルでは教えられ
ない、体験以外ですね。

十五周年のときに作文集を作
りました。十五年の思い出集で

す。百編くらい出てきたんで
すが、一ページ目にこう書いてあ
ったんです。「ゲストが届けて
くれたハピネス」という表題で、
読んでいったら一冊全部が、お
客様がキャストに幸せを届けて
くれたことが書かれているん
です。

それらをみて、私が感じたこ
とは、お客様の気持ちを捉えて対
応すると、お客様が喜びを感じ
てくれるんだということです。
ゲストの満足とキャストの満足
は、車の両輪みたいなもので、
お客様の満足が「ありがとう」
という言葉で返ってくるのが、
本当の教育に役立っている気が
いたしました。

私も、オープン以来、ずー
っと満足度調査みたいなものを
実施していますし、クレームな
ども全部とってあります。高度
成長の時代、まだまだサービス
というものが他所でよくない
に、私どものサービスは、優
れていたと思われたんでしょう。
たくさんの手紙を頂きましたが、
だんだんとその比率が減って
きて、今ではクレームの一番
多いのが、従業員の態度が悪い
ということです。ですからクレ
ームがシビアなんです。私
たちは満足（満足度）を売って

るんです。満足度というのは、
満足度という公式があるそう
なんです。お客さんの期待が
増してくると、同じことをや
ると満足度が低下してくるの
は、サービス業に共通なんです。
やればやるほど、いろんな要
望が出てきて、それに対応しな
いと不満が出てきます。

最後にまとめを申し上げます
と、心からの対応、“心の時代”
は間違いなく来るし、そこが大
事だということを申し上げたい
んです。それから、お客様本
位の仕組みは、まだまだ企業に
出来てないんです。たいがい
自分たち本意の仕組みになっ
ていますね。この時代に対応
するには、相当の意識改革と
システム

の改革ができて、お客様中心
の体制ができないとダメだとい
うことを言いたいですね。これ
からの企業格差はサービス格
差になり、いままでの、もの
の格差から、サービスの質の
格差が表に出てくると思いま
すので、心の重要性というの
を認識していただいて、これ
からの実務に結び付けていた
だければ幸いです。
どうもきょうは、ご静聴あり
がとうございました。

こんにちは

公認会計士

松澤 進 事務所

公認会計士 税理士

松澤 進氏(大38回)



今回は公認会計士の松澤進氏の事務所を訪ねました。

J R 山手線 五反田駅西口から徒歩三分、A I O S 五反田アネックスの瀟洒なオフィスビルの四〇五号室。

〒一四一—〇〇二二 品川区東

五反田一の七の一 A I O S

五反田アネックス四〇五号

Tel 03(340)8678

Fax 03(340)5831

E-mail: susumu@02.246.ne.jp

Home Page:

<http://www.02.246.ne.jp/~susumu>

一発合格

——本日はお忙しいところをよろしく願います。早速ですが、現在のお仕事を始められた、きっかけとか経緯からお願いしましょうか。

(松澤) 大学三回生の冬ごろから、当時は就職活動が始まりました。私もご他聞に洩れず、諸先輩方のお話を聞いたりしてたのですが、滋賀大はいい企業に

は入れるが、いまいち、その企業の中ではバツとしないのではないかと思ったのです。名前だけいいところにもいっても、下の方でくすぶっていても面白くないと思います、思い通り活躍できる場を得たいという気持ちがありましたね。

私は会計学科で、会計学同好会に入っていました、簿記とかはあまり好きではないのですが、理論とかは嫌いではなかったのです。税理士とか会計士とかで、どうも会計士のほうが資格はよさそうだということがわかりました。会計士になると税理士も出来るということで、会計士を受験しようと思いましたが、当時の私の知っている大学の先輩方には、会計士になつている方は殆んどゼロに近かつたんですね。そんな状況ですから、まわりの方は、"なんて無謀なことをするんや、うちの大学から受かるわけあらへんやろ"(笑)と。

それで父と相談したのです。父は同業なのですが、"男ならやってみろ"ということでした。彦根では環境がととのわないので、東京でやれということでした。一方、ゼミの井上先生に、

"わかった。特別だけれど、ゼミは月に一回来なさい。"と言っていたのです。それで東京の専門学校に決めました。

毎日、朝七時半から、夜十時くらいまで机にかじりついていました。幸運にも一発で合格したのです。三年くらいで受かる

といがなと思っていました。が、専門学校申し込み時に、自習室を見たら、真っ白い顔した人たちが電卓たたいてるわけです。うわあ、気持ち悪いところへ来た、こんなところに三年もいたら腐ってしまうと思

い、一年で絶対受かってやろと、やりだしました。

——まわりから見れば、異色だったわけですね。

(松澤) そうですね。専門学校で模擬試験を受けるときに、電卓を忘れて借りにいったら、

"ええっ？電卓忘れた？そんなやついるのか"と、会計士の受験生にあるまじき奴、扱いでした。会計士の独自の仕事に、監査があるのですが、監査ってな

んだらうなという次第です。合格最初の年は、専門学校で講師をやりました。専門学校で、先生と仲良くなつていましたので、先生をやらないうこととしました。

——そのころは、もう評価も高かつたわけですね。

(松澤) 先生は会計士試験に合格している方ばかりだったので、専門分野以外でも全部の科目勉強していますから質問に行

ったときに、専門の先生がいらっしゃらなくても、そこに居合わせる先生に教えていただける

のです。"あいつ、しつこい奴だな"ということになって、親しくなったのです。

——専門学校はどこでしたか。

(松澤) 大原簿記専門学校です。専攻は財務諸表論でした。大学を卒業したてですから、生徒には年下の人が半分、年上の方が

半分ですか。人に教えるということは勉強になりましたね。それと人前で話すということは、

自分の考えをまとめるという練習になったと思います。教壇で教える生徒は二百人ほどでした。

——"先生"はどれだけ勤められたのですか。

(松澤) 一年間です。会計士に

なったら、みんな、監査業務をやりたい、会計の実務の現場に出て行きたいという気持ちを持っていますから、先生も一年とかで終えて、監査や実務の現場に出て行くのがほとんどだったのです。そこでセンチュリー監査法人に入りました。センチュリーは太田昭和監査法人と合併して、今は新日本監査法人になっていますが、四年間おりました。

——皆さんそういうルートを経るわけですか。

(松澤) 九割以上はそのようなルートですね。通常は会計士の二次試験に合格してすぐ監査法人に入りますね。

——四年間、同じ担当だったんですか。

(松澤) 担当している会社は十何社がありました。大きな会社は、月に何度か行きましたが、小さいところは二月に一度とか

でした。キャリアを積んできますと一人であちこち行くようになります。

——企業の決算月なんかは忙しいのでしょうか。

(松澤) そうです。季節労働者みたいなものです(笑)。外資系企業の決算監査が始まる一月から、日本企業の決算監査が終

る六月くらいまでは、とても忙しいですね。

若造を先生、先生と

——お客さんのところでは、先生、先生でしょう。

(松澤) そうなんですけれど、言われるほうは違和感があるんですよ。会社で、部長とか課長とかは、我々よりもずーっとキヤリアが長く、会社のことに精通していますし、会計のことに

についても、知識が深かったりするんですね。こんな若造に先生なんていう必要はないと思うのですがね。

私が滋賀大を卒業したということからですか、関西の人の気質に影響されたのか、お客様とすぐ仲良くなるんですね。ところが、元いた会計士の先輩方とかクライアントの方には、こんな会計士、見たことないと思しがられました。

殊に同年代の人とはすぐ仲良くなっちゃうんですね。そうすると、相手は先生と言わなくなつて「松澤さん」とか、そのうち「まっちゃん」とかになつちやつて。ある時、クライアントの仲のよい一人が、私たちが仕事をしている時に「きょう、上司に怒られちゃってさあ」とい

うから「またなんかやつちゃったんだろう」と聞いたたら、「課長がさあ、俺らが先生、先生言ってるのに、お前がまっちゃんとは何事だあ」と怒られた」と言うのです。

大原の時も監査法人の時も、仕事はたいへん面白かったですね。商売、なんでもそうなんでしょうけれど、人と人とのつながりというのがベースにあると思うのですね。

——四年後、独立されたわけですが、そのへんの経緯を。

(松澤) 大学のときに、一人で旗揚げしてやろうと思ひ、会計士の試験に挑戦したわけです。専門学校の講師の仕事も監査法人での仕事も、とっても面白かったのですが、監査法人に入ってから、暫らくしたら独立するのだと決めていたわけです。大学の三回生のときにおおよそ目標設定していたので、そういうことを決めていなかったら、監査法人の仕事にのめりこんでいつまでも辞められなかったと思いますね。

——開業当初からこの場所ですか。

(松澤) そうです。最初はお客様が

が、税理士法には広告規制という内部規則があつて下手に営業してはならないという規定があるわけです。会計士の業務というのは監査業務ですが、監査業務が必要な会社というのはある程度大きな会社で、そういうところは、ほとんど監査法人が占めていますから、会計士事務所を設立して独立しましたという

若造に、監査の仕事が降りてくるなんてことはあり得ないんです。ですから税理士登録をして税務業務から始めるわけです。監査法人は、昭和三十年代後半に出来ているのですが、もとは個々の街の会計士さんがやっていたのです。相手の会社が変わることになって、損害賠償を突きつけられると、一人の会計士さんでは耐えられないのですから、何人か集まって特別法人みたいなのを作ろうとして出来たのが監査法人です。大手四社くらいで、上場会社の八割は占めていると思います。独立会計士の入り込む余地というのはほとんどないですね。

ネットで活路

——最初のクライアントは

(松澤) 友達の紹介からでした。陵水関係もあれば良かったので

すが、なかったですね。今も残念がらないんです。三年くらいは苦しい期間でしたが、ちょうどそのころ、ようやくインターネットが出てきまして、これは伸びるんじゃないかと思ひ、ホームページをいちはやく立ち上げました。税理士関係では一番早いほうではなかったかと思ひます。だけど、皆さん、まだインターネットをやり引き合いができてきました。

——お客様は、ホームページ出しているから、コンピュータに強いかということもあつて、そちらからの引き合いもありました。そのころ、コンピュータの勉強もしましたので、かなりいい線いっていったと思っております。

——ホームページに、会社設立時の必須事項とか、諸官庁届書式とかを掲載されていますが。(松澤) そうですね。単に「会社の設立請負います」というより、イントロで、こういうことが必要なんですとか流しておくと、食いつきがいいんですね。あれは琵琶湖のえり方式ですよ。網をピツと張っておくのではなくて、だんだんだんだん沿っていったら入っちゃったとい

うことで、(笑)。今、何社くらいなんですか。(松澤) 法人がメインで三十社くらいです。

設立後の苦労話は

(松澤) やっぱり、設立時ですね。金が出ていきますが、収入がないわけですよ。会社勤め時代はちゃんと入ってきますが、一転、赤字に落ちちゃうわけですよ。きつかったですね。

活性化は会員の活躍

——話は飛びますが、現在、経済状況はよくないですが、どう思われますか。

(松澤) バブルのころを基準にして、景気を判断しているのではないかと思うのですね。確かに、今は景気は悪いと思いますよ。でも、ちょっと前までは普通の状態だったと思うんですね。経済復興のためには、雇用の流動化が必要だと思います。

会社で苦しいときは、切るところは切つて、収益の上がるところ、生産性の高いところを増やしていかなければなりません。今は一番苦しいときだと思います。高度経済成長期は、日本の経済レベルが先進国に比べる

と低かったと思うのです。追いつき追い越せとやってきたので

すが、同じレベルまでくると、もうこれ以上、上にいくということはない出来ませんよ。出口が見えないという状況ですか。

皆さん、将来の不安があるから、消費しないのです。我々の世代もそうですが、下の世代の人は、行き先、年金が貰えるとは思っていませんよね。そうすると、自分で蓄えておかなければなりませんからね。国の行政に対する信頼というものがありませんから。実際に国民年金を払わない人は増えてきてますね。

——一方、大学のあり方などは。（松澤）大学の独立行政法人化は確実にありますね。魅力ある教育をして、そこから輩出された人材が社会で活躍していることがわかれば、よい生徒は集まってくると思いますよ。そのために先ず、我々陵水会の会員は小粒だけどピリリと辛いよというのを、これから大学を受験しようとする高校生にわかるような形にしていこうですね。

あの大学を卒業したらこんな活躍をした人がいるから、俺もなれるかもしれないと思わせることが必要ですし、そういう生徒たちが入ってきたときに、受け入れるだけの授業を教授にやっ

てもらわないと、大学としての存在価値がなくなります。すぐには生徒は集まってこないと思いますが、滋賀大の教育はこうなっているらしい、あるいは卒業生がこういう活躍をしているらしいと見て入ってくるわけですから、すぐにリアクションがあるわけではないですね。

——陵水会の活性化が幹事会などでよく議論されるのですが、松澤さんはどう思いますか。（松澤）私は、会費がたくさん集まるとか、人が多く集まるとかということよりも、陵水会員が各分野で、より活躍することが活性化だと思うのです。皆さんの持っている、培った力を思う存分発揮することだと思えます。『活性化会議』で皆さんが首を揃えて集まるのでしたら、陵水で新しいビジネスプランを出ると面白いと思いますね。で、出る範囲で力を出してみようよと。いわゆる起業意識がですね。こうした、次の会合に発表して、出資金を集めるとかすることも考えられますからね。

——きょうは、いろいろ興味のあつた話を聞かせていただきありがとうございます。

一、彦根

新幹線が名古屋を出てスピードを上げる。関が原を過ぎる頃から、車窓右手が気になり始める。彦根カントリークラブの看板がす

つ飛ぶ、列車はアツという間に近江平野に出て京都へ一直線となる。彦根を振り返る時間もない。旧東海道線ならば、米原駅から右手に彦根城の後姿をゆ

っくり眺めながら彦根駅に入っていく。琵琶湖の側に聳え立つこの美しい彦根城は、市内のどこから見ても美しく飽きる事が無い。関西からの場合、京都から近江八幡を通り退屈し始める頃、車窓左手に彦根城の遠景が目に入ってくる。近江平野の中に小高く白亜の天守閣が端然として佇んでいる。目を瞑ってもすぐ記憶から呼び戻せる印象的な風景である。特に美しいの



彦根城

が冬の雪の降る日の彦根城である。この奥深い幽玄な美しさはどこにも見当たらないと思っている。

私は、歴史の街彦根で昭和三十四年から留年の一年間を入れた五年間、良き仲間恵まれ学生生活を過ごせた幸せを強く感じている。

二、宇和島

私が社内・社外の方々に彦根の事を自慢し過ぎるので、私が四国、愛媛宇和島の出身であることを知らず、滋賀県出身者だと思われることが多くある。私は今年三月、人生一期作を終り二毛作に入った。改めて宇和島と彦根を重ねてみると関係するところが多いことに納得する。縁を感じる。ふるさと宇和島は豊後水道を挟んで大分の反対側に位置する。彦根に劣らず美しい街である。

ここで百三十四年前の宇和島をご紹介します。慶応二年（一八六六年）六月二十四日英国が派遣したプリンセス・ロイヤル号が測量船サーベント号の先導を

彦根と宇和島、司馬遼太郎と石丸先輩

宮野幸雄（大12回）

受けて宇和島に入港した。乗船していた一下士官の宇和島描写を引用すると、「乗組員一同は甲板に鈴なりになつて、美しい風景に驚きの声を上げた。八方を険しい緑の丘に囲まれ、所々に小川が流れ込んでいたり、幾つも入り江があるところなどは長崎より変化に富んでいる。あの高い連山の下に見える宇和島城と街の構図は絶妙だ。」と述べている。この後、同年十二月一日、かの有名な英国公使館付日本語通訳官アーネスト・サトウが、長崎から鹿児島を周ってアーガス号で宇和島に入港している。「美しい湾が、ほとんど陸に取り囲まれており、二千フィートの高低さまざまな山に囲まれていた。藩主の城塞は街の右手にあたって際立った目標となっていた。」

宇和島をこよなく愛された作家司馬遼太郎氏はその印象を、「私は五月頃の宇和島の景色が好きですね。桜も終りになり、山の濃い緑の中に山つつじの花が転々と開きます。クスノキの若葉も吹き出してくるようで、日本の景色の中でも有数の美しさだと思うのですが、この話を宇和島の友人にしても、謙遜するのか、反応がありません。」

と言うことになる。私の彦根自慢は宇和島自慢に通じている。

尚、このプリンセス・ロイヤル号に乗船して日本語通訳を担当していたのが、長崎郊外鳴滝塾を開いたオランダ人フランツ・フォン・シーボルトの息子二十才のアレキサンダー・シーボルトであった。時代は、彦根藩主井伊直弼が大老職に任ぜられたのが八年前の安政五年（一八五八年）四月二十四日、アメリカ合衆国のペリー提督が浦賀に黒船に乗ってやって来、開国を迫ったのは十三年前の嘉永六年（一八五三年）六月のことであった。

三、彦根と宇和島

彦根藩主は江戸幕府譜代大名の筆頭として幕政に重きをなした井伊家であり、彦根は三十五万石の城下町であったことは良く知られている。

しかし、彦根は、舟橋聖一氏の「花の生涯」が昭和三十八年第一回、NHK大河ドラマとなり、全国的に有名になった。尾上松緑、淡島千景が出演した。いっぽう、宇和島藩は、仙台藩伊達政宗の長男秀宗を藩祖とする十萬石の城下町である。この初代秀宗の夫人が彦根井伊家の出身であるところが宇和島と

の縁の始まりである。さて、井伊直弼は、大老就任二ヶ月後、

日米修好通商条約に朝廷の勅許無し、伊豆下田で調印した。もめていた将軍後継問題では水戸斉昭の子、一橋慶喜に反対し、紀州藩主徳川慶福を推す事を謀った。そこで、井伊大老は幕閣を強化し難局を乗り切る為に、宇和島八代藩主伊達宗城の実兄、三千石の旗本山口丹波守直信を大目付に任命した。この大目付は大名を監視する巨大権力を有する役職であった。

井伊政治は、その後、「安政の大獄」で見られるように弾圧政治へと舵が取られ、ついには万延元年（一八六〇年）三月三日、大老は桜田門外で水戸浪士、薩摩浪士に殺害されるといふ悲劇に終わった。しかし、その後、事件に関わった浪士達を処分したのは正に宇和島藩主伊達宗城の兄、大目付山口直信であった。私は当時、彦根は長崎、鹿児島のように外国と頻繁に接触があったとは考えられない。彦根藩出身の井伊大老がどうして大胆に開国に踏み切ったのか、ずっと疑問を持っていた。が、恐らく開明的な宇和島藩主伊達宗城との交流が、大老の進取的な政治に影響を与えたのではな

いかと考えている。

四、司馬遼太郎と宇和島と石丸先輩

宇和島城の真下、丸の内五丁目に彦根高商先輩、第二十一回（昭和二十年九月卒業）石丸良久さんの石丸綿業店のお店がある。石丸さんと奥様については、作家司馬遼太郎さんが「街道をゆく・14・南伊予、西土佐の道」の中で詳しく生き生きと描いておられる。司馬さんの奥様、みどり夫人が、石丸さんの奥様と女学校時代の同級生のご縁だそうである。司馬さんの文章から石丸さんを描くと、これが面白い。司馬さんが宇和島で、寄り合い酒をして石丸さんを待っていた、「——やがて階下から人声がして、すぐやんだ。やんだころには廊下に人影が立って、立派な初老の紳士があらわれた。『博子の夫です。』竹の枝を鋭利な刃物で削ぎはらったような簡潔な自己紹介である。」

私は石丸さんとのご縁で滋賀大学に入学した。石丸さんには、私が滋賀大学に入学してから現在に至るまで大変お世話になっている。休暇で帰郷する度に丸の内のお宅にお邪魔して、石丸

さんといっぱい酒を飲む事を楽しみとしてきた。酒宴は夕方五時ごろから始まり、9時ころまで二人さしで飲み会が続く。その間、ビールの箱は空になり、酒に変わる。彦根の話から始まり、俣聖歌を歌い、高商校歌を歌ってお開きとなる。博子夫人が「あなたたちには、大学は彦根以外にないですね」と、我々の彦根讃歌を聞いてあきれ顔でお酌をしていた。今年五月、五月墓参の折、石丸先輩と石丸綿業店のそばに新しく出来た店でいっぱい飲んだ。石丸さんは焼酎のライム割りを注文された。出てきたのは、焼酎のレモン割りであった。石丸さんは、キツパリ「私が頼んだのは、焼酎のライム割り、レモンとは違います」と。石丸さんらしさが出ていた。私は、とにかく人生一期作を終えた。自分としては良き収穫が出来たと思っている。諸先輩を始め多くの方々のご縁を頂いた。しかし、私が最もお世話になったのは石丸先輩である。石丸先輩のお陰で無事ここまでやって来たと感謝でいっぱいである。これでやっと彦根と宇和島が結ばれた。

（参考図書…谷 有二「宇和島物語」）

（五ページからつづく）

いる。ハリウッド映画の最新作は、日本に先駆けて公開されている。日本ではまだ「貧しいロシア」のイメージが残っているが、ロシアの現実は相当変わってきている。もし機会があれば、ロシアを訪問して、その変わりを自分の目でご覧になっていただくことをぜひお勧めしたい。（筆者は卒業後、大阪市立大学大学院経済研究科を経て、現在、ロシア研究者として、東北大学東北アジア研究センターに勤務。）

グルメ同好会へのお誘い

~~~~~  
陵水会東京支部に新たな同好会ができた。美味しいものをリーズナブルな値段で、楽しく食事をするグルメ同好会だ。美味しい食事を囲みながら、懇談にたふりとした時間がかけられる。同窓会のつながりのなかで、違う分野の人とゆつくりとした会話を楽しむことが出来る。会費は、当日の食事代だけ。第二回は平成十四年一月二十五日（金）十九時から開催する。ご関心のある方は、陵水会東京支部事務局までご連絡をおねがいする。



## 東京陵水会囲碁会便り

第四十六回東京陵水ゴルフ会

平成13年6月6日(金)

金乃台カントリーC

第四十七回東京陵水ゴルフ会

平成13年9月5日(水)

金乃台カントリーC

梅雨入りを忘れたような夏空に恵まれてプレーを楽しんだ。今回は「タテ交流」型の組み合わせで、先輩は燃え、後輩は専ら敬老を旨としたためか、最年長の葛上さんが優勝されたのを始め、二、三位も本协会会员が占め、参加者一同大いに健闘を称えたことであつた。前回四十五回も、本科24回の川本さんが優勝され老人パワーが活躍している。

7、8月と非常に暑かつたわけには、それほど残暑も厳しくなく、恵まれた中、二十八名が参加。ここ数回の高商組の活躍から大学四回の蓑島さんが初優勝。負けじと楠田先輩が三位に入賞。先輩の奢りのお酒が一段とすすんだパーティーであつた。

### 記録

ネット

### 記録

ネット

|      |                                                              |        |
|------|--------------------------------------------------------------|--------|
| 優勝   | 葛上宗一郎(本20)                                                   | 67(28) |
| 2位   | 中辻 喜蔵(本21)                                                   | 68(29) |
| 3位   | 西沢 正(本24)                                                    | 68(16) |
| 4位   | 天木 清次(大8)                                                    | 70(8)  |
| 5位   | 北沢勝太郎(短5)                                                    | 71(9)  |
| 7位   | 吉原 悟一(大9)                                                    | 73(20) |
| 10位  | 小塩 守(大10)                                                    | 75(12) |
| 15位  | 三宅 義男(大6)                                                    | 77(21) |
| B B  | 川本 茂(本24)                                                    | 89(17) |
| B G  | 天木清次                                                         |        |
| ニヤピン | 吉原、原島(大4)、<br>天木、柴田(大2)、竹内(大4)、<br>小林(大8)、浦谷(大7)、<br>中川(大10) |        |

(中川 記)

|      |                    |        |
|------|--------------------|--------|
| 優勝   | 蓑島 安夫(大4)          | 71(18) |
| 2位   | 北沢勝太郎(短5)          | 72(9)  |
| 3位   | 楠田 通彦(本24)         | 76(20) |
| 4位   | 池田 辰彦(大8)          | 77(13) |
| 5位   | 大久保義夫(大6)          | 78(18) |
| 7位   | 吉原 悟一(大9)          | 79(20) |
| 10位  | 三井 照次(大10)         | 80(4)  |
| 15位  | 箸方 海三(大4)          | 82(12) |
| 20位  | 中川 寿一(大10)         | 84(13) |
| B B  | 葛上宗一郎(本20)         | 95(17) |
| B G  | 北沢 81              |        |
| ニヤピン | 今回は記録消失。<br>(箸方 記) |        |

四半期毎開催の囲碁大会が三年七月七日(土)、東京八重洲「いずみ囲碁サロン」で行われた。本科十八回から大学十四回までの二十三名が出席し、抽選で対戦相手を決めたあと、なごやかななかにも少々緊張した表情で対局開始。四局、六時間近い熱戦が繰り広げられ、午後七時前に席を近くの居酒屋「玉の光」に移し恒例の懇親会となつた。ビールで乾杯後、ほろ酔い気分になったところで成績発表。佐野会長から各種商品が授与された。入賞者の弁や、それぞれが囲碁談義に花を咲かせ、和気あいあいのうちに宴もたけなわとなった。九時前、秋の再開を約し囲碁を堪能した有意義な一日も無事終了し散会した。成績結果は次のとおり。三井四段は五段に、天田六段は七段にそれぞれ昇格した。

### 記録

優勝 天田 志郎

(大5・六段) 四勝

準優勝 三井 照次

(大10・四段) 四勝

三位 北村平太郎

(大5・七段) 三勝一敗

四位 水引 芳雄

(大2・六段) 三勝一敗

五位 中川 弥次

(大3・二段) 三勝一敗

七位 刀祢館信雄

(大8・五段) 三勝一敗

十位 神崎 栄次

(大3・七段)

十五位 用田 政一

(大3・二段)

二十位 高木 巖

(大7・初段)

B B 細井 恭一

(大5・初段)

(順位はスイス方式採用)  
上記以外の参加者

佐野志郎(本18・七段) 柏嶋敏

男(本18・初段) 橋本侃(本22・

二段) 山崎昭雄(本22・二段)

山口昭夫(本22・初段) 刀祢館

治男(大2・四段) 新宮毅(大

2・四段) 栗本雅夫(大4・四

段) 青島弘(大5・六段) 井上

明郎(大5・六段) 池田弘孝(大

8・七段) 吉原悟一(大9・五

段) 鈴木克治(大14・七段)

(天田 記)

## 近況



二一五会(本科二十一回、東亜科  
五回 昭和二十年九月卒)総会

ときは十月十日。ところはお

台場。集いし級友三十名。迷走

を続けた台風二十一号の余波の

篠つく雨の中、全員濡れ鼠の参

加。日取り設定の幹事として無

念の極み。元来体育の日と文化

の日の晴天率は八十五パーセン

トと氣象庁は言う。逆説的に言

えば印象に残る総会となつたと

自ら慰めている。

二一五会は昭和五十年地元彦

根での開催以来、京阪、中京、

東京と場所を移して回を重ねる

こと今回で十七回目である。東

京開催は、前回平成三年、樋口

廣太郎君の心配りによる、浅草

カーニバルと隅田川舟遊びをオ

プションとした、アサヒビール

本社プラムドールでの総会以

来、十年振りである。

今回は、面目を一新した臨海

副都心のお台場で、第二の原宿、

若者のメッカと称されるビーナ

スフォート三階の「ブリックス

トリート」を会場として開催し

た。同店はアサヒ直営ニューヨ

ークテイスト・レストランであ

る。午後四時開会、恒例により





して旧交を温め、三時間有余の交遊を楽しんだ。

前回の参加者は級友五十八名、夫人等二十名、計七十八名、物故者は四十八名であったが、今回は級友三十名、夫人等五名、計三十五名の参加で物故者は八十六名である。十年の間に参加者は半減、物故者は倍増。加齢化現象とは言え、心淋しい限りである。欠席者の理由も体長不良が多い。

来年は地元彦根での開催となる。お互い喜寿を迎え、次の節目となる傘寿まではと、自省自愛、健康管理に努めたい。有明ワシントンホテル宿泊組の二十一名は、同ホテル二十一階の三十三間堂にて、雨空の東京の夜景を肴に秋の夜長の二次会を楽しみ、翌日は秋晴れのお台場探訪へと散会した。最後に、会の冒頭に予定していた樋口君の時事講演が、直前の体調不良により中止となり誠に残念であったが、一日も早い回復を祈る。また鳥居君と共に三人で東京総会を計画推進してきた河添君も、総会直前に体調を崩し参加できなかったのは重ね重ね残念であった。

(本21回 中辻喜蔵 記)

## 東京の「彦根藩」を歩く

(東京散歩)

彦根を訪ねた折りは、彦根城に登り、江戸時代二百六十年、譜代大名として幕閣に重きなした彦根藩の姿を城下町の面影の中に探る。歴代の彦根藩藩主、藩士は参勤交代で江戸に下る江戸のなかのここ彼処に彦根藩の足跡を残した。それらを探索して東京を歩いた。(編集室)

○上屋敷…江戸本邸は三宅坂際と言われ、現在の千代田区永田町には、日本水準原点が置かれている。また嘗ては陸軍参謀本部がおかれ、国家枢要の場所であった。もともと加藤忠広の屋敷があったが、寛永九年(一六三二年)忠広が改易となり、その後井伊家が本邸を構えて明治に至った。「桜の井」とよばれ、江戸の名水が湧出していた井戸の跡が屋敷跡に残されている。開国の雄志半ばにして、井伊直弼が暗殺された桜田門は坂を下ること十分余り。

○下屋敷…鬱蒼とした緑に包まれた、明治神宮。このなかに井伊家別邸があったと知る人は少ない。この森はもともと植林による人工の森であり、安政六年

(一八五九年)の分間江戸大絵図によれば、「西」と大書され、近くには「井伊掃部」とあり、藤駿河の屋敷が記載されている。当初ここも加藤忠広の下屋敷であった。寛永十七年(一六四〇年)五月、時の將軍徳川家光が、この地を井伊直孝に与えた。直孝はここが気に入っている手を加え、その後「千田谷御屋敷」と呼ばれた別邸となつた。周囲約三キロ、面積約十八万余坪(六十ヘクタール)の広さがあつた。屋敷の南東に「代々木」の名の由来となつたモミの大木があつた。いまは標識が立つ。閑静な「清正の井戸」からは今もこんこんと清水が湧き、邸内の庭園であつた御苑の南池を美しく満たしている。

○下屋敷…絵図によれば、もう一つ下屋敷が記載されている。「浜屋敷」の性格を持つものである。中央区八丁堀四丁目から新富一丁目周辺にかけて規模は大きくないが、同絵図には屋敷から直接乗船出来るよう江戸湾から掘割が通じている。

○中屋敷…JR四谷駅で電車をおりて、迎賓館脇の坂道を赤坂見附に向かつて下って行き左に堀跡をわたると紀尾井町にで

上屋敷跡・三宅坂



下屋敷跡・清正の井戸



中屋敷跡



豪徳寺正門



井伊直弼墓標



世田谷代官屋敷



## 編集室 所感

る。紀は紀伊徳川で中屋敷跡が清水谷公園一帯、尾は尾張徳川で中屋敷跡に上智大学が建つ。そしてホテルニューオータニが弁慶堀を取り込んだ美苑を誇示して大きく建っているが、これこそ井を表す井伊藩の中屋敷跡である。徳川譜代の筆頭としての貫禄を感じる所でもある。

○豪徳寺・小田急線豪徳寺駅から徒歩十分の静かな住宅地のなかに、樹木に深く囲まれた寺域の広い古刹がある。文明十二年（一四八〇年）世田谷城主の吉良氏の創建という。その後荒廃していた同寺を井伊直孝が江戸の菩提寺として復興に意を尽くし豪徳寺と改名した。境内の墓所には直弼の墓標が目立つ。桜田門の変で殉難した八士の碑がたち、また直孝を手招きした招福猫タマの伝説にちなむ招福堂とタマの碑が建っている。春の花、秋の紅葉と自然も美しい。

○世田谷代官屋敷・江戸時代中期から、彦根藩世田谷領の代官を世襲してきた大場家の住居。大場代官屋敷とも呼ばれ、都史跡でもあり、同家所蔵の古文書も都指定有形文化財。昨春秋は、彦根藩の幹部で漢詩で著名な岡本黄石の特別展示が併設の世田谷資料館で開かれた。

二十一世紀が、騒然とした中で終わりを告げ、新たな年を迎えました。

わが陵水会にも、母校の将来像への注目とともに、新たな模索が行われています。在学時の数々の思い出、交遊、体験等が百分卒業後の現在につながっているとは思いませんが、せめて、その何%かを大事にして、同じ琵琶湖畔で青春時代を過ごした仲間との結束を強めていきたいものです。数ある陵水会支部中でも、その規模の大きさが最右翼に位置するわが「東京陵水」が、会員相互の交流活発化のなかで活動活性化が推進されたらと、編集子一同願っています。今号から紙面をB5版からA4版に拡大し、活字のポイントを大きくして、より読み易いものに改訂しました。一読された後、ご感想をお寄せください。

### ご意見をお寄せ下さい

国立大学の独立行政法人化に向けて、母校についても再編成・統廃合の論議が高まっています。会員皆様のご感想をお寄せ下さい。



## 第4回 琵琶湖夢街道 大近江展

【会期】平成14年2月13日(水)～19日(火) 7日間  
【会場】日本橋高島屋 8階会場  
【主催】滋賀県・(社)滋賀県物産振興会  
【協賛】(社)東京滋賀県人会・全国滋賀県人会連合会

### 滋賀県の主な商品

淡海の幸に伝統の技・鮎ずし、湖魚佃煮  
野趣に富む冬の味覚・鴨コース  
霜降りのとろけるうまさ・近江牛  
味わいの深い・近江のつけもの  
一葉一葉に心を込めた香り高さ・近江銘茶  
土よし、水よし、味もよし・近江米  
それぞれの街から生れた・自慢の銘菓  
馥郁芳醇・地酒の散々  
じっくり寝かせた手作りの味・天然醤油  
国産の花にこだわる健康食品・はちみつ  
栄養豊富で健康 美容食等として好まれる・ゆば



歴史と現在に酒いをもたらす・湖国の焼き物  
江戸から今へ・伝統の大津絵  
歴史をも織りこまれている・くみひも  
びわ湖からの優しいメッセージ・淡水真珠  
日本の美、心を伝える・浜ちりめん  
伝統に"SENSE"を加えた・竹細工  
比叡の芳香・近江のお酒  
幽玄の世界へ誘う・和ろうぞく  
天平の技術を伝える・雲平筆  
国指定の伝統工芸・近江上布



皆様のご来店を心からお待ち申し上げております。

### 「会報」原稿・情報ご送付先

林 史欣 (大8)

〒164-0014

中野区南台二一五一一〇

(TEL・FAXとも)

〇三―三三八―四四三

※編集室のメールアドレスを

tkyryts-press@excite.co.jp

としましたのでご利用下さい。

(次号分)切日 三月三十一日

### 発行所

〒231-0801

横浜市中区新山下3-9-3

陵水会東京支部 支部長 小池英夫

電話045(622) 2686

### 印刷所

〒110-0015

東京都台東区東上野1-28-3

船舶印刷株

電話03(3831) 4181